

2006年12月4日

光学材料用アクリル樹脂プラント完工

株式会社日本触媒

株式会社日本触媒（社長：近藤忠夫）は、2010年に向けた中長期経営計画を策定し、最重点課題として電子情報材料分野への本格参入を掲げています。2006年4月に電子情報材料事業部を新設し、当社独自の技術・材料を武器に2010年には売上高300億円のコア事業に育て上げていきます。

この電子情報材料事業のうち、期待の新規製品として事業化に乗り出した光学材料用アクリル樹脂は、顧客との共同開発で事業化に成功し、姫路製造所において専用生産設備の建設を進めてまいりました。このたび、同設備（年産能力3000トン）が完工し、10月からFPD用途向けに販売を開始しました。

同樹脂は、日本触媒が開発した新規アクリル系樹脂で、透明性、耐熱性（120℃）、接着性に優れ、また熔融押し出しが可能で生産性が高いなどの特長を有しています。

さらに当社では、光学フィルム材料として拡販を図っていくため、このたび完成した生産設備に引き続き、2007年秋には年産能力3000トンの増設も決定し、2010年売上目標100億円に向けた体制作りを進めています。

電子情報材料事業ではこの他にイオン性液体などの新規製品や球状微粒子、機能性色素など既存製品の拡販により、2005年度50億円程度の事業規模を2010年度には300億円に拡大することを目指しています。

以上

本件に関するお問い合わせ先

（株）日本触媒 総務部広報グループ

電話 03-3506-7477